

「主な取組」検証票

| | | | | | |
|--------------|--|----------------------------|-----|--|--|
| 施策展開 | 4-(2)-ア | アジア・太平洋地域の共通課題に対する技術協力等の推進 | | | |
| 施策 | ②各分野における国際協力・貢献活動の推進 | | | | |
| (施策の小項目) | ○JICA沖縄との連携 | | | | |
| 主な取組 | 水道事業の技術交流・技術協力 (企業局) | 実施計画 記載頁 | 368 | | |
| 対応する 主な課題 | ○沖縄の地理的な特性と、これまで培った経験や知識及び様々な分野における研究成果を生かし、県民の理解と協力のもと、国際的なネットワークや国際協力の知見を有する専門機関等と連携・協力し、国際協力・貢献活動を推進していくことが求められている。 | | | | |

1 取組の概要(Plan)

| | | | | | | | |
|-------|---|----|----|----|----|-----|--------------------------------|
| 取組内容 | 沖縄と地形的、気候の特徴が類似する太平洋島嶼国等に対し、島嶼地域に適合した水道事業の運営及び水資源保全に関するノウハウの移転等を目的として、JICA研修員受入事業を実施する。 | | | | | | |
| 年度別計画 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29～ | 実施主体 JICA沖縄 県 市町村 |
| | 11人 受入人数 | | | | → | → | |
| | 海外研修員受入事業(JICA事業)等の実施 | | | | | | |
| 担当部課 | 企業局 総務企画課 | | | | | | |

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

| 平成27年度実績 | | | | |
|-----------|---|-------|--|------|
| 事業名 | 予算 | 決算見込 | 活動内容 | 主な財源 |
| 海外研修員受入事業 | 6,263 | 2,570 | JICAの委託を受け太平洋島嶼国等を対象とする課題別研修「大洋州島嶼における水資源管理・水道事業運営」コースを実施し、12名(フィジーなど9カ国)の研修員を受け入れた。 | 県単等 |
| 活動指標名 | | | 計画値 | 実績値 |
| 海外研修員受入人数 | | | 11人 | 12人 |
| 推進状況 | 推進状況の判定根拠及び平成27年度取組の効果 | | | |
| 順調 | 計画値11人に対し、実績値12人であり、計画を上回っていることから、取組は順調である。また、研修員が本研修を通じて自ら学んだ研修成果を自国の水道事業改善に活かすことを目的に、研修員自らアクションプランを作成することで、島嶼地域に適合した水道事業の運営及び水資源の保全に関するノウハウの移転を図っている。 | | | |

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

| 平成28年度計画 | | | |
|-----------|-------|--|------|
| 事業名 | 当初予算 | 活動内容 | 主な財源 |
| 海外研修員受入事業 | 8,974 | 平成27年度に引き続き、JICAの委託を受け太平洋島嶼国等を対象に課題別研修を実施する予定である。離島研修は継続し、重複している研修内容を一部見直す方向で検討する。 | 県単等 |

様式1(主な取組)

(3) これまでの改善案の反映状況

| 平成27年度の取組改善案 | 反映状況 |
|---|--------------------------|
| ①引き続きJICAの受入事業を推進するとともに、太平洋島嶼国に適した水道技術の提供や、より効果的な研修内容にするため研修内容の検討を行う。 | ①重複している研修内容について、見直しを行った。 |

(4) 成果指標の達成状況

| 成果指標 | 基準値 | 現状値 | H28目標値 | 改善幅 | 全国の現状 |
|-------|---|-----|--------|-----|-------|
| — | — | — | — | — | — |
| 参考データ | 沖縄県の現状・推移 | | | 傾向 | 全国の現状 |
| — | — | — | — | — | — |
| 状況説明 | 平成22年度より大洋州諸国の研修員受入を行い、島嶼地域に適合した水道事業の運営及び水資源保全に関するノウハウの効果的な移転を図っている。また、より効果的な研修になるよう年度毎に研修内容の見直しを行っている。これまでに受け入れた研修員は、延べ60名余りにのぼり、自国での水道事業発展への貢献が期待されている。 | | | | |

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境の変化)

| |
|---|
| <p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修が研修員の出身地である太平洋島嶼国等の課題等の解決に資する研修であると評価されているが、さらに効果的な研修となるよう関係者と協力して取り組む必要がある。 <p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の地理的な特性とこれまで培った経験や知識及び様々な分野における研究成果を生かし、県民の理解と協力のもと、国際協力の知見を有する専門機関等と連携・協力し、国際協力・貢献活動を推進していくことが求められている。 |
|---|

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄と地形的、気候的特徴が類似する太平洋島嶼国等に対し、島嶼地域に適合した水道事業の運営及び水資源の保全に関するノウハウの移転等を図る必要がある。 |
|--|

4 取組の改善案(Action)

| |
|--|
| <p>水道事業の技術交流・技術協力については、より効果的な研修となるよう、JICA沖縄をはじめ水道事業に関する国際協力の知見を有する専門機関等と連携・協力しながら、研修内容の改善・充実を図る。</p> |
|--|